

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」^{ほうそうげんこう} 放送原稿（4月26日（金）放送分）

テーマ 新着図書紹介

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。^{か ごしまけんりつあま} 鹿児島県立奄
^{み としよかん} 美図書館です。

今朝は、^{あまみとしよかん} 奄美図書館の新着図書についてご案内します。

まずは、一般書のご案内です。

1冊めは、直木賞作家、^{えくに かおり} 江國香織さんの『ちょうちんそで』です。いい匂い。あの街の夕方の匂い……。人生の黄昏時を迎え、一人で暮らす^{ひな こ} 雛子の元を訪れる様々な人々。息子たちと幸福な家族、怪しげな隣室の男と友人たち、そして誰よりも言葉を交わすある大切な人。人々の秘密が解き明かされる時、雛子の謎も解き明かされてゆく。人と人との関わりの不思議さ、切なさ^{かんば}と歓びを芳しく描き上げる長編。記憶と愛を巡る物語になっています。

2冊めは、^{おきふじのりこ} 沖藤典子さんの『それでもわが家から逝きたい』です。住み慣れたわが家で、自分らしい最期を迎えたい……。これは多くの人々の願いでしょう。けれども、家族の介護力は弱まり、^{ぜいじやく} 老いの支援体制も脆弱な現在、わが家から旅立つことはできるのでしょうか。「それでもわが家から…」という願いに、どう向き合えるのでしょうか。生活援助や老老介護、終末期医療の問題など、老いの始まりから終わりまでを見渡しながら、制度・政策、家族や地域の問題を考えていく。具体的なエピソードもふんだんに収載しています。本人や家族、ホームヘルパー、看護師、医師たちの困難と努力の物語です。

次は、児童書をご案内しましょう。

1冊めは、^{まつおかきょうこ} 松岡享子さんの『じゃんけんのすきな女の子』です。あるところに、とてもじゃんけんの好きな女の子がいました。何を決めるにもじゃんけん。相手がいないときは自分一人で、また、色々なものを相手にじゃんけんをします。お父さんやお母さんには、「物事には、じゃんけんで決めていいことと、悪いことがあります。」と叱られますが、女の子は平気です。ところが、ある日、とても大事なことを決めるのに、とんでもない相手とじゃんけんをしなければならなくなりました。さて、女の子はどうしたのでしょうか。

2冊めは、世界的な絵本作家エリック・カールさんの『プレッツェルのはじまり』です。この絵本は、お菓子のプレッツェルの由来について書かれています。昔々、お城を囲む小

さな国のすみっこにパン屋さんがありました。そこでパンを毎朝つくっているのが、国じゅうで、町じゅうで、一番腕のいいパン職人のウォルターです。お城に住む女王さまや王さまもロールパンを気に入っていました。ところがある日、こぼれてしまった牛乳の代わりに水を入れてパンをつくりました。いつもと味が違うことに怒った王さまは、ウォルターに「朝日が三つさしてくるパンをつくるのだ。もし、できなければ、この国から出て行ってもらおう。」と命じます。さて、ウォルターは無事に新しいパンを発明できるのでしょうか。

最後は郷土に関する本のご案内です。

おがわただし
小川 忠さんの『戦後米国の沖縄文化戦略』です。ミシガン州立大学の指導によって初めて沖縄に設立された高等教育機関である琉球大学は、米軍のいかなる政策的意図を負っていたのか。本土復帰運動は米軍の文化戦略にどう作用したのか。日米双方の公刊・未刊の資料や文献を駆使して、米国軍政の意図と意図せざる結果を、大学本部・学生側の反応と併せて浮き彫りにし、日・米・沖縄の関係性を考える本です。

さて、ゴールデンウィークが始まります。奄美図書館では、「こどもの読書週間」にあわせて、5月12日まで一人につき、一般図書10冊、児童図書10冊、合計20冊まで借りることができます。ぜひ、この機会にゆっくり読書をお楽しみください。

かごしまけんりつあまみとしよかん
鹿児島県立奄美図書館でした。